

令和4年度 スポーツ庁委託事業
地域スポーツ連携・協働再構築推進プロジェクト
実績報告書

令和5年3月

北海道教育庁教職員局教職員課

- I. 北海道の取組概要
- II. 運動・スポーツ体験イベント開催結果
- III. アンケート調査結果
- IV. 成果報告会
- V. 広域連携検討会議

I 北海道の取組概要

本事業の趣旨や、部活動の地域移行に向けた指導者や財源の確保など、北海道の各地域が抱えている課題を踏まえ、本事業の狙いを明確化し、関係者間で共有した上で事業を実施した。

1 趣旨

- 休日の部活動の地域移行に向けた指導者不足等の課題解決に向け、中核都市のスポーツ人材やプロスポーツチーム、競技団体等との連携、民間資源の活用等による実証を行う。
- すべての子どもたちのための多様な運動・スポーツ環境の整備のため、複数自治体による広域連携体制により、各自治体におけるスポーツ活動の強みを活かした実証を行う。

・地域コミュニティの活性化
・部活動の地域移行に向けた「原動力」を生み出す

2 実証自治体

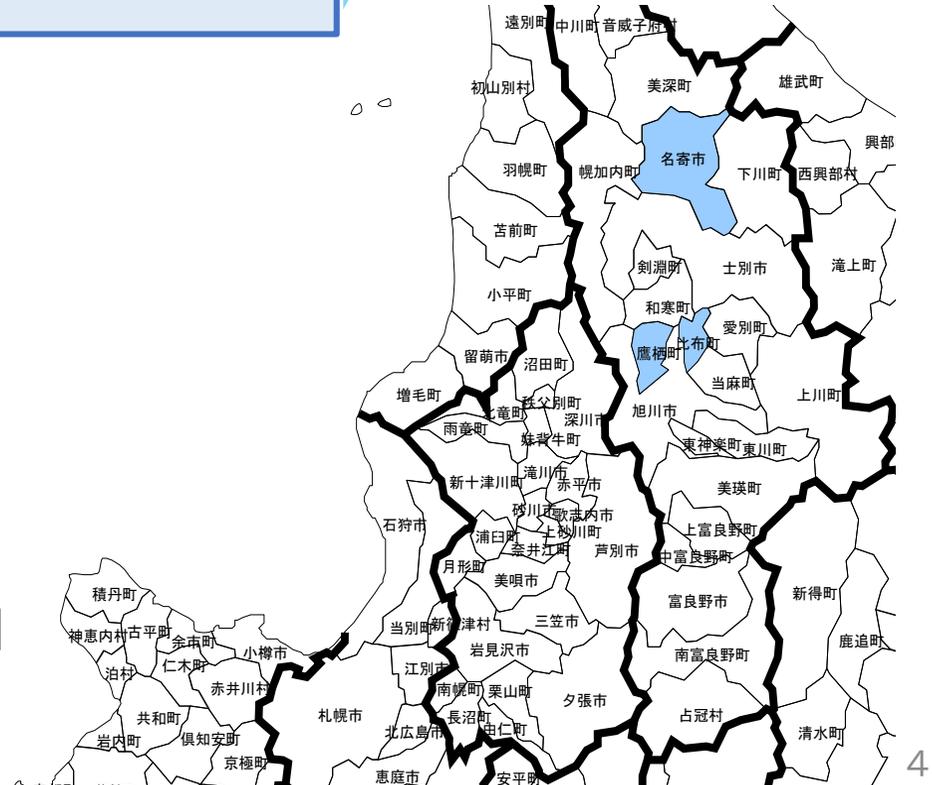
名寄市・鷹栖町・比布町

3 関連自治体

旭川市
上川総合振興局管内各市町村

4 取組期間

令和4年10月28日～令和5年3月15日



5 事業の全体像

実証自治体における関係機関や民間事業者を含む「広域連携検討会議」を開催し、各地域のスポーツ振興を取り巻く課題や取組等について情報交換するとともに、道と実証自治体等が連携し「運動・スポーツ体験イベント」を開催。イベントと並行して、スポーツ指導者の発掘や民間事業者等との連携の可能性を模索することを目的とした「アンケート調査」を行った。これらの結果を踏まえて「成果報告会」を開催し、全道へ事業の成果を普及した。

運動・スポーツ体験イベント

1月15日～2月23日 全8回 6種目
@名寄市・鷹栖町・比布町



アンケート調査

- ① スポーツ指導者の発掘、条件等の把握
- ② 民間企業等との連携可能性の把握

成果報告会

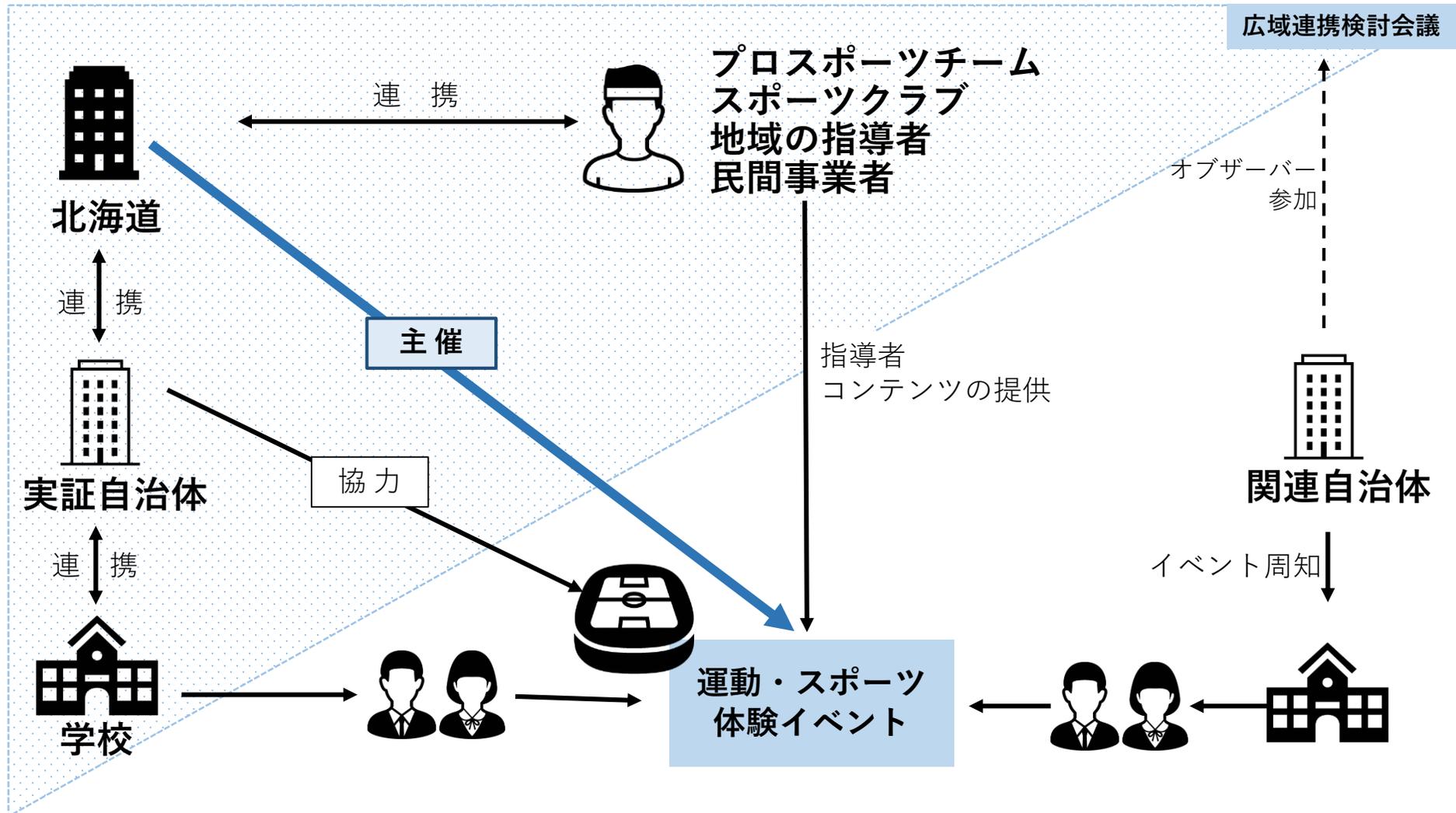
3月6日（月）
@鷹栖町・名寄市

広域連携検討会議 2回開催（令和4年11月、令和5年3月）
（実証自治体関係機関・アドバイザー等）

事務局：北海道教育庁教職員局教職員課
北海道環境生活部スポーツ局スポーツ振興課

6 事業の実施体制

広域連携検討会議によって関係者間の連携を深めるとともに、北海道が主体となって、実証自治体やスポーツチーム、民間事業者等の協力の下で「運動・スポーツ体験イベント」を開催。上川管内の関連自治体によるイベント周知の協力によって、広域的な範囲から参加を得られた。



Ⅱ 運動・スポーツ体験イベント

日時	場所	種目	参加人数
1月15日(日)	鷹栖町総合体育館	バレーボール	70名
1月28日(土)	名寄市スポーツセンター	バドミントン	75名
1月29日(日)	鷹栖町総合体育館	バドミントン	81名
2月12日(日)	鷹栖町B&G海洋センター	バルシューレ Nチャレンジ	バルシューレ:20名 Nチャレンジ:20名
2月12日(日)	比布町農村環境改善センター	ダンス	8名
2月16日(木) 2月22日(水)	比布町いちごアリーナ 比布中央学校体育館	ピピカツ運動教室	16日:8名 22日:14名
2月19日(日)	名寄市風連B&G海洋センター	バルシューレ Nチャレンジ	バルシューレ:29名 Nチャレンジ:40名
		ダンス	18名
2月23日(木)	比布町体育館	バレーボール	9名
全 8 回 6種目			392名

種目選定の考え方

事業の趣旨や部活動の地域移行を見据え、
次の考え方から種目を選定

- 発達段階の早い時期から運動に親しむことができる
- 地域の強みとしている（中学校の部活動で実施）
- 域内で指導者が確保出来る
- 地域の部活動になく子どもたちの体験機会が少ない
- 単独自治体では実施が難しい



バレーボール



バドミントン



バルシューレ



Nチャレンジ



ピピカツ



ダンス

(参考)



バルシューレ

バルシューレ (Ballschule) は子どものボール運動指導プログラムとして、1998年にドイツのハイデルベルク大学で創設されました。

バルシューレは、全ての球技に通じる基礎的な運動能力を楽しく身に付けながら、オールラウンダーを養成することを目的としています。プログラムの目標は、「①基礎運動スキル」「②技術・戦術のスキル」「③コーディネーション能力」を身に付け、ボールゲームに必要な能力の土台を作ることです。



Basic Exercise 基礎運動スキル

投げる、蹴る、打つ、捕るなどの基礎的な運動スキル。



Tactics 技術・戦術のスキル

瞬時にボールの軌道を予測することや相手の隙を見つけることなどの技術的・戦術的なスキル。



Coordination コーディネーションスキル

様々な条件の中でうまくボールを扱えるコーディネーションスキル。

Mission01

多様な運動経験および多様な用具を使用します。

Mission02

子どもの発育発達に応じたトレーニングを実施します。

Mission03

「楽しい」と感じられる運動環境を提供します。

Mission04

夢中になって取り組むことで無意識的に技能が身につく指導をします。

バルシューレでは子どもたちは遊びのように、自由かつ夢中にプレーするだけですが、指導者は各プログラムが何を課題としているかを把握して指導をします。

プログラムの中には瞬時の状況判断が必要なゲームや、子どもにとって複雑な動きもありますが、子どもが夢中になり運動の楽しさを感じるように工夫されているため、スポーツを初めて行う子どもや苦手な子どもでも楽しんで取り組みます。もちろん、すでにスポーツに取り組まれている子どもでも、更なる能力アップを目指して取り組むことができるよう工夫されています。

(一般社団法人SLDIのHPより抜粋)



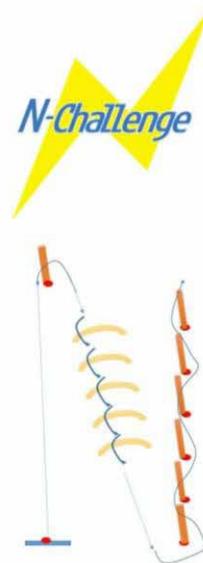
Nチャレンジ

子どもの直線のスピードや方向変換を中心としたアジリティ能力を、楽しく測定する運動プログラムです。N字型のコースを走るとすぐに記録紙が配布されます。

N Challenge (Nチャレンジ, エヌチャレンジ) は、子どもが楽しんで取り組めるアジリティテストとして北海道教育大学岩見沢校の教員が開発しました。N字型に走行すること、日本の最北「North」の北海道で開発されたことが「N-challenge」の名称の由来です。

10m×6m程度のスペースで実施可能で、体育館内だけでなく屋外のイベントなどでも実施できます。N Challengeの走行コースは、ミニハードルやスラロームが設置され、それをN字型に走るコースになっており、小学校1年生でも11-12秒程度、小学6年生では8-9秒程度で完走できます。運動時間が短いため疲労感がほぼなく、また適度な難易度があるため楽しんで取り組める運動テストになっています。

タイム計測方法は、光による合図でスタートとなり、6つの区間タイムおよびそれらの合計タイムの7つを光電管とパソコンによって自動計測します。この7種類のアジリティー関連能力を専用の記録用紙で即時に運動者にフィードバックします。



Nチャレンジはこれまで次のように活用されています。

- ▶ アスリートのアジリティ評価
- ▶ 学校での体力向上プログラムとしての活用
- ▶ イベントの運動プログラム

(北海道教育大学岩見沢校のHPより抜粋)

(参考)



ピピカツ

ピピカツとは

町が実施する体づくり・健康づくり事業の総称

全世代の住民が、いつまでも健康で生きがいを持つ生活を送ることを目標に、
【食う(食)】【寝る(睡眠)】【遊ぶ(運動)】をテーマとした事業を展開

「無理せず」「楽しむ」をテーマに

「学校の体育が苦手」、「球技が苦手」⇒ 運動に対する負のイメージ
⇒ 学校を卒業したら、運動はしない
「運動」= 体育ではなく 「運動」= 遊び に変える

「体育は苦手だったけど、体を動かすことは好き」な人を増やす

特に幼少期からの取組みが重要

取組み例①

エリプスセンス配布

①乳幼児を対象に「エリプスセンス」を配布

エリプスセンス = 「遊びながら学ぶ」をコンセプトにつくられた発育応援グッズ
ラグビーボールのような形状で、凹凸がついている。



取組み例②

②前期課程運動教室～1年生から6年生まで
(内容)

- ・1年～3年、4年～6年の2グループに分け、週1回実施。
- ・幼児向け同様、遊びながら運動機能を向上させるプログラム。



③後期課程運動教室～7年生から9年生まで
(内容)

- ・学年ごとに分け、週1回実施。
- ・遊びを意識しながら、成長段階に合わせたプログラム。



(比布町教育委員会作成資料より抜粋)

競技種目

バレーボール

※プロチームと包括連携協定を締結するなど、地域の強みとする競技

特色

鷹栖を中心に活動するプロビーチバレーボールチームDOTsの選手が直接指導

参加者

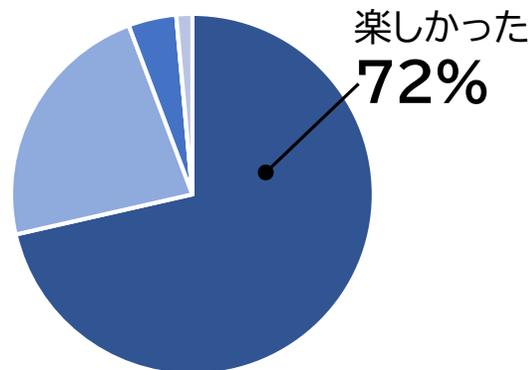
70名（小学生43名、中学生27名）

成果

- 広域的な範囲からの参加（鷹栖町他、名寄市・旭川市・愛別町・上川町）
- 「部活動バス」の活用による名寄市からの団体参加
- 様々な学校やチームの子どもたちが一緒に活動
- 地域のプロチームと子どもたちのコミュニケーションの活性化（タッチポイントの創出）
- プロ選手の直接指導による子どもたちの意欲向上
- 運営者・プロチーム・指導者・教員等関係者間のネットワーキング



元プロバレーボール選手の古田史郎選手、辰巳遼選手、白石啓丈選手の3名が2021年7月に設立した北海道初のプロビーチバレーボールチーム



普段学べないことが学べてとても楽しかった。



競技種目

バドミントン

※北海道は全国的に競技人口が多い。（日本バドミントン協会会員数19,120人、東京神奈川に続き全国3位）

特色

札幌を中心に活動する**コンサドーレ札幌バドミントンチームの選手が直接指導するほか、公開練習の見学も実施**

参加者

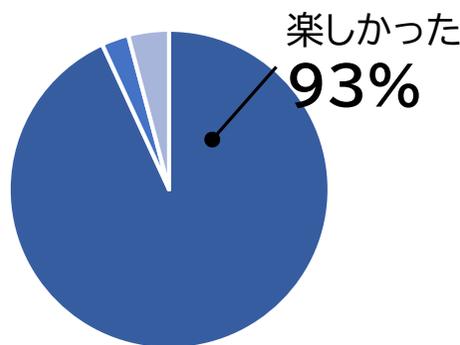
75名（小学生13名、中学生62名）

成果

- 広域的な範囲からの参加（名寄市他、下川町、士別市、東神楽町）
- 様々な学校やチームの子どもたちが一緒に活動
- 北海道のトップチームと地方のコミュニケーションの活性化（タッチポイントの創出）
- トップチームの直接指導による子どもたちの意欲向上
- 未経験者の体験機会の創出
- 公開練習の見学が、最先端の練習方法・指導方法の研修機会



2017年に創設。現在、国内最高峰のバドミントンリーグS/Jリーグに所属。日本トップクラスのチームとして札幌市を中心に活動中。



色々な人と関われた。
選手の方のアドバイス
で改善点を見つける
ことができた。





HOKKAIDO
BOARD OF
EDUCATION

競技種目

バドミントン

※北海道は全国的に競技人口が多い。(日本バドミントン協会会員数19,120人、東京神奈川に続き全国3位)

特色

札幌を中心に活動する**コンサドーレ札幌バドミントンチームの選手が直接指導するほか、公開練習の見学も実施**

参加者

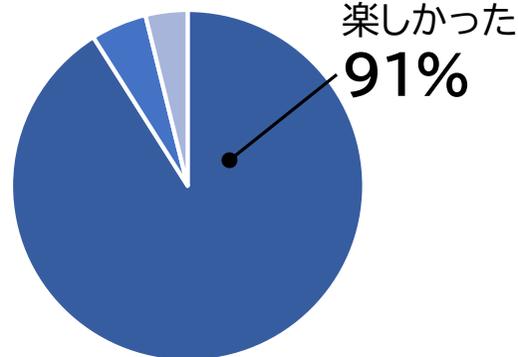
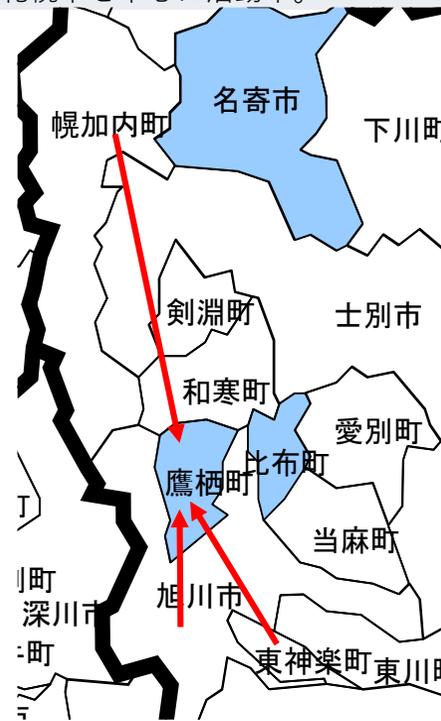
81名 (小学生68名、中学生7名、高校生6名)

成果

- 広域的な範囲からの参加 (鷹栖町他、旭川市、東神楽町、幌加内町)
- 様々な学校やチームの子どもたちが一緒に活動
- 北海道のトップチームと地方のコミュニケーションの活性化 (タッチポイントの創出)
- トップチームの直接指導による子どもたちの意欲向上
- 未経験者の体験機会の創出
- 公開練習の見学が、最先端の練習方法・指導方法の研修機会



2017年に創設。現在、国内最高峰のバドミントンリーグS/Jリーグに所属。日本トップクラスのチームとして札幌市を中心に活動中。



いろいろな選手とたくさん話して、笑ったりしたことが楽しかったです。

競技種目

バルシューレ・Nチャレンジ

特 色

基礎運動能力を高めるドイツ発祥の球技であるバルシューレと道教育大学岩見沢校の教員が開発したアジリティを測定する運動プログラムNチャレンジの体験。岩見沢の総合型スポーツクラブを運営する**一般社団法人SLDI**から講師を招いた。

参加者

20名（小学生19名、幼児1名）

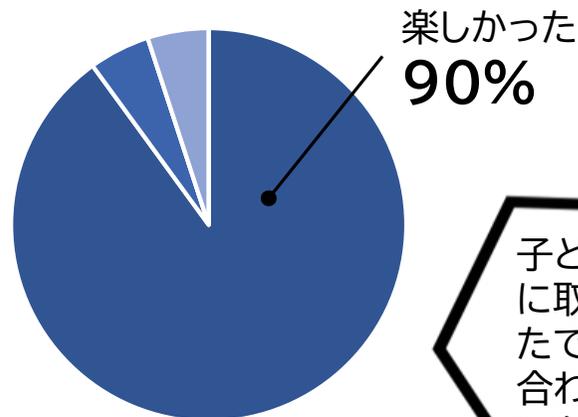
成 果

- 普段、触れる機会の少ない競技の体験機会の創出と優れた運動プログラムの普及
- 発達段階に応じたプログラムを通して、子どもたちが身体を動かすことの楽しさを実感
- 自身の運動能力を数値で把握することで、数値の向上に向けてゲームのように夢中になって取り組んだ。
- 鷹栖町総合型地域スポーツクラブの種目検討のきっかけとなった。



岩見沢市を拠点として、スポーツクラブ事業を軸に教育事業、指導者人材育成事業などを展開。

北海道教育大学岩見沢校の研究チームと連携してバルシューレを応用し、子どもの豊かな運動経験を目指したプログラムであるCAPS-Childを実践。



子どもが楽しそうに、真剣に取り組んでいて嬉しかったです。子どもの理解度に合わせて目標を調整していただき、感謝です。

Nチャレンジで1回目よりもAがふえたことが楽しかった！



競技種目 **ダンス**

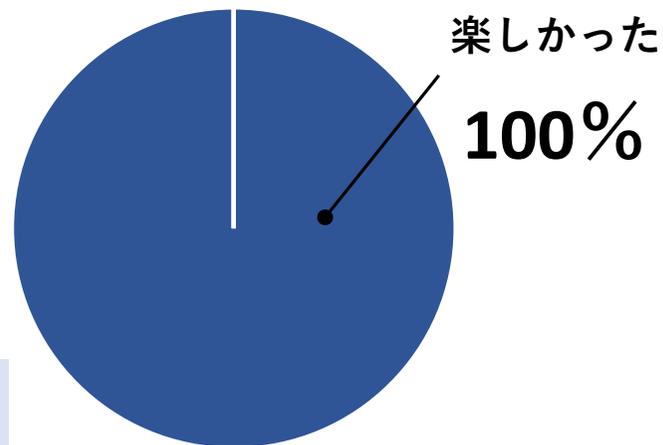
特 色

きつねダンスで全国的に人気のある北海道日本ハムファイターズ
オフィシャルチアチーム・**ファイターズガール**から講師を
招いたダンス教室

参加者 **8名**（小学生8名、幼児1名）

成 果

- 講師と子どもたちの距離感が近く、子どもたちの心に残る教室となった。
- 全国的に人気のきつねダンスを通して、子どもたちがダンスの楽しさ、音楽に合わせて身体を動かすことの楽しさを実感。将来の活動につながって行く可能性。
- 北海道のプロスポーツチームと地方とのコミュニケーションの活性化（タッチポイントの創出）
- 運営者、講師、実証自治体間のネットワーキングが促進



きつねダンスをおぼえ
られて楽しかった！

あまり得意ではなかった
けど、楽しくなって、ダン
スが好きになった！





HOKKAIDO
BOARD OF
EDUCATION

競技種目

ピピカツ運動教室

特色

「運動が脳を活性化する」という研究に基づき、発達段階に応じて、楽しみながら運動機能を向上を目指す比布町独自の運動プログラムである「ピピカツ運動」を体験

近隣地域のスポーツインストラクターの他、プロバレーボールチームVOREAS北海道のトレーナーによる指導

参加者

16日：8名（小学生8名）

22日：14名（中学生14名）

成果

- 近隣市町村で活躍するスポーツインストラクターの活用
- 旭川市を拠点とするプロバレーボールチームVOREAS北海道と子どもたちのタッチポイントの創出
- 誰もが楽しめる運動機会の創出
- 地元密着型の運動プログラムの普及



旭川、東神楽、東川、美瑛を中心にエクササイズ、介護予防、幼児体育、パーソナルトレーニングを提供。障害者スポーツの活動もあり。



2016年に誕生した日本初のプロバレーボールチーム。旭川市を拠点に鷹栖町、東川町、比布町をサブホームタウンとして活動。2022年V.LEAGUE DIVISION2 MEN 優勝

運動ぎらいのわたしでも
すごく楽しかったです。
ありがとうございました！

ゲーム方式にした運動を
たくさんするから、運動が
苦手でも楽しめた！



競技種目

バルシューレ・Nチャレンジ

特色

基礎運動能力を高めるドイツ発祥の球技であるバルシューレと道教育大学岩見沢校の教員が開発したアジリティを測定する運動プログラムNチャレンジの体験

参加者

バルシューレ：29名（未就学児：24名、小学生：5名）

Nチャレンジ：40名（未就学児：20名、小学生：20名）

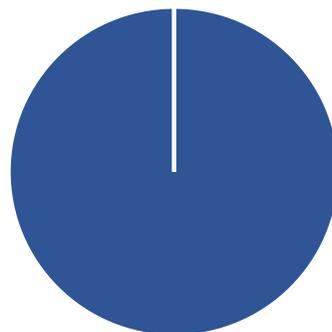
成果

- 普段、触れる機会の少ない競技の体験機会の創出と優れた運動プログラムの普及
- 発達段階に応じたプログラムを通して、子どもたちが身体を動かすことの楽しさを実感
- 自身の運動能力を数値で把握することで、数値の向上に向けてゲームのように夢中になって取り組んだ。



岩見沢市を拠点として、スポーツクラブ事業を軸に教育事業、指導者人材育成事業などを展開。

北海道教育大学岩見沢校の研究チームと連携してバルシューレを応用し、子どもの豊かな運動経験を目指したプログラムであるCAPS-Childを実践。



楽しかった

※バルシューレ参加者のアンケート

100%

とてもよい教室だったので、ぜひまた参加したいです。

今回初めてバルシューレというのを知りました。とても良い体験をさせて頂きました。継続的に通える教室があったら、ぜひ通わせたいです。



競技種目 **ダンス**

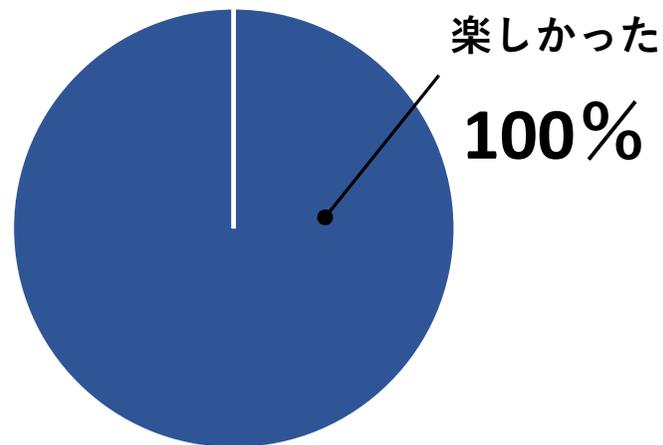
特色

きつねダンスで全国的に人気のある北海道日本ハムファイターズ
オフィシャルチアチーム・**ファイターズガール**から講師を
招いたダンス教室

参加者 **18名** (小学生11名、幼児7名)

成果

- 講師と子どもたちの距離感がかなり近い中で進められ、子どもたちの心に残る教室となった。
- 全国的に人気のきつねダンスを通して、子どもたちがダンスの楽しさ、音楽に合わせて身体を動かすことの楽しさを実感。将来の活動につながって行く可能性。
- プロスポーツチーム
- 運営者、講師、実証自治体間のネットワーキングが促進



北広島の新球場に行ってキツネダンスをおどりたいです！また名寄に来てください！

やさしくおしえてくれて、すごく楽しめました。





競技種目

バレーボール

※プロチームと包括連携協定を締結するなど、地域の強みとする競技

特色

鷹栖を中心に活動するプロビーチバレーボールチームDOTsの選手が直接指導

参加者

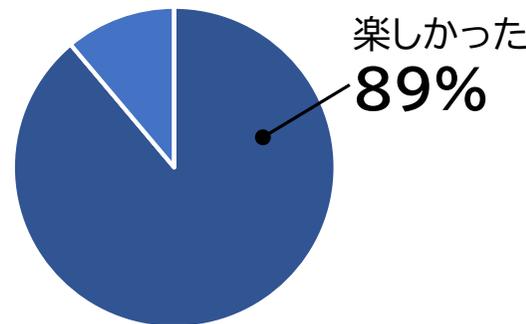
9名（小学生4名、中学生5名）

成果

- 近隣地域のプロチームを指導者として活用
- 小1から中3まで幅広い年代の参加
- プロ選手の直接指導による子どもたちの意欲向上
- 未経験者の体験機会の創出
- 運営者・プロチーム・指導者・教員等関係者間のネットワーキング



元プロバレーボール選手の古田史郎選手、辰巳遼選手、白石啓丈選手の3名が2021年7月に設立した北海道初のプロビーチバレーボールチーム



もっとバレー教室を開いてほしいです。

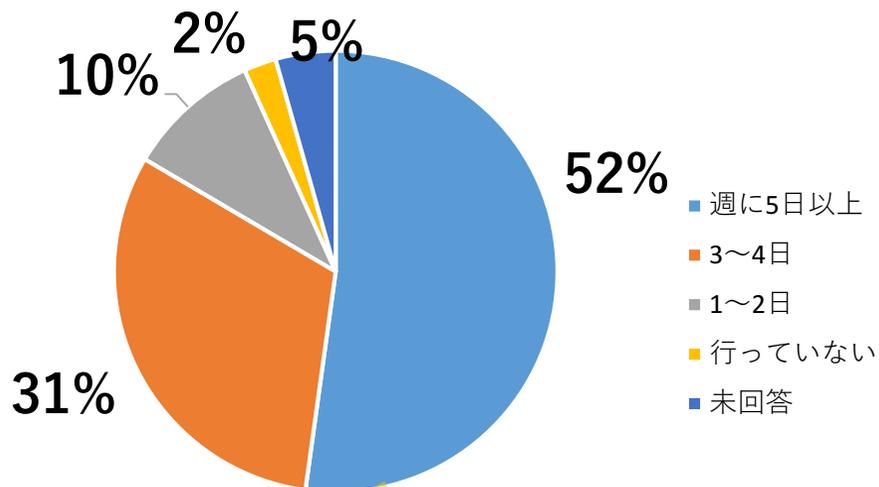


みんなとあそべた。ともだちができた！



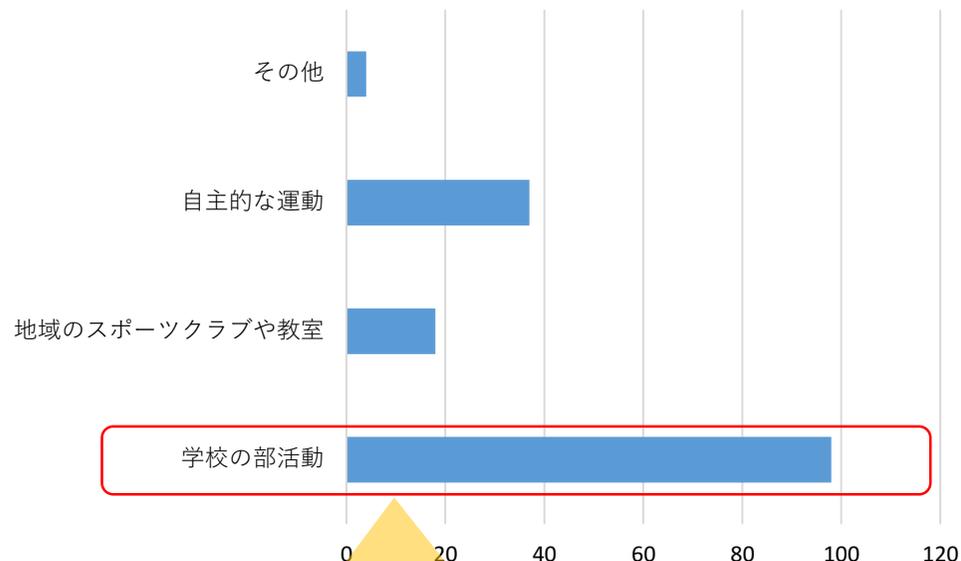
一週間にどれくらい運動・スポーツを行っていますか？ n=297

中学生1名／112名 1%
小学生6名／171名 4%



中・高生：83名／112名 **74%**
小学生：71名／171名 42%

運動・スポーツはどのように行っていますか？（複数回答・中高生のみ） n=157



中学生：92名／106名 87%
高校生：6名／6名 100%

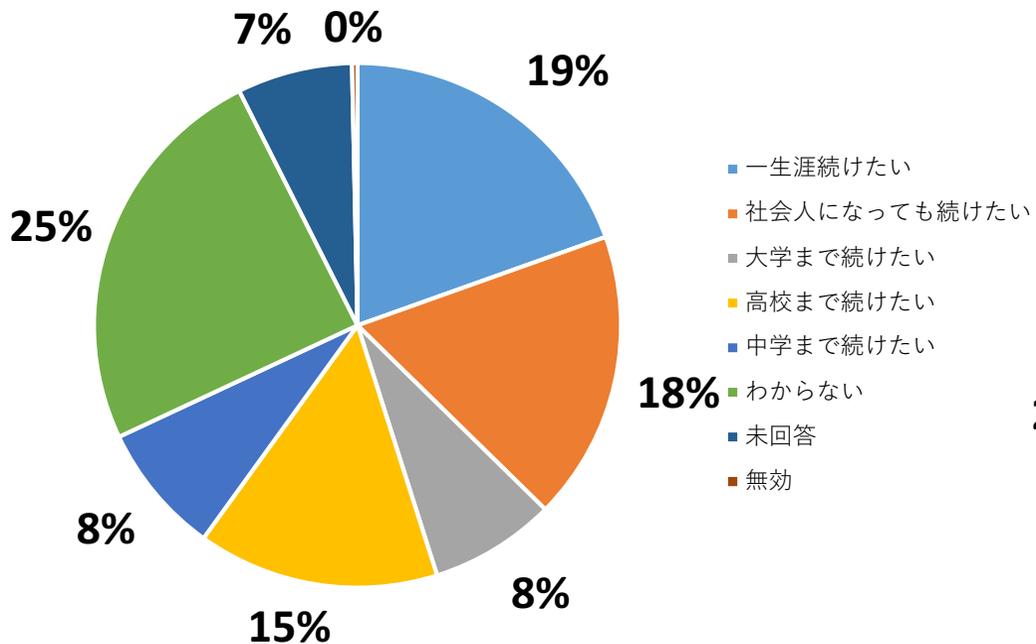
子どもたちが運動・スポーツに親しむ機会として、部活動の果たす役割は大きい。



部活動が果たしてきた役割や意義を継承・発展させ、子どもたちの望ましいスポーツ環境を整備していくことが我々の役割

いま行っている種目は、
将来どのくらい続けていきたいか

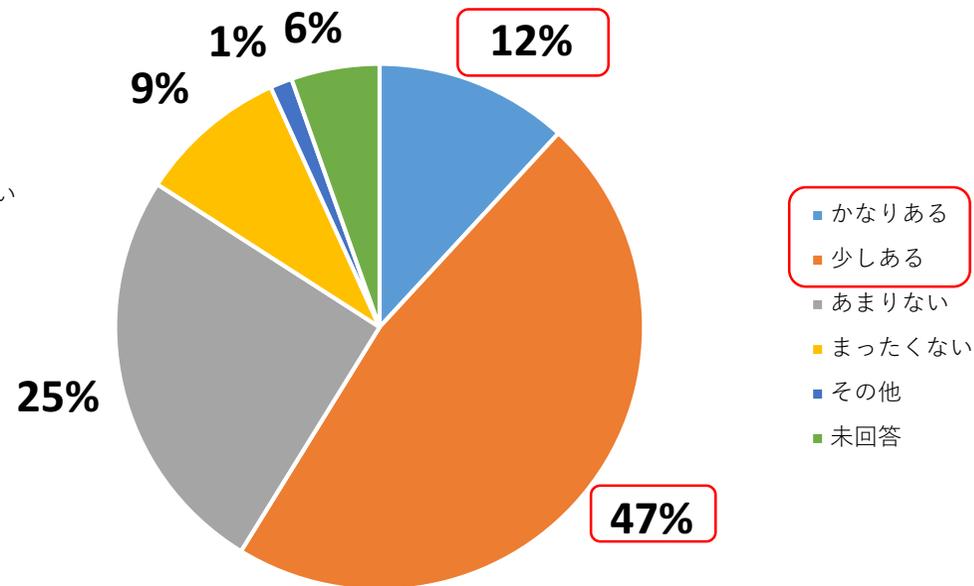
N=297



現在実施している種目に関する今後の見通しはそれぞれであり、マルチスポーツの意義を広めながら、生涯に渡ってスポーツに親しめる環境の整備が求められる。

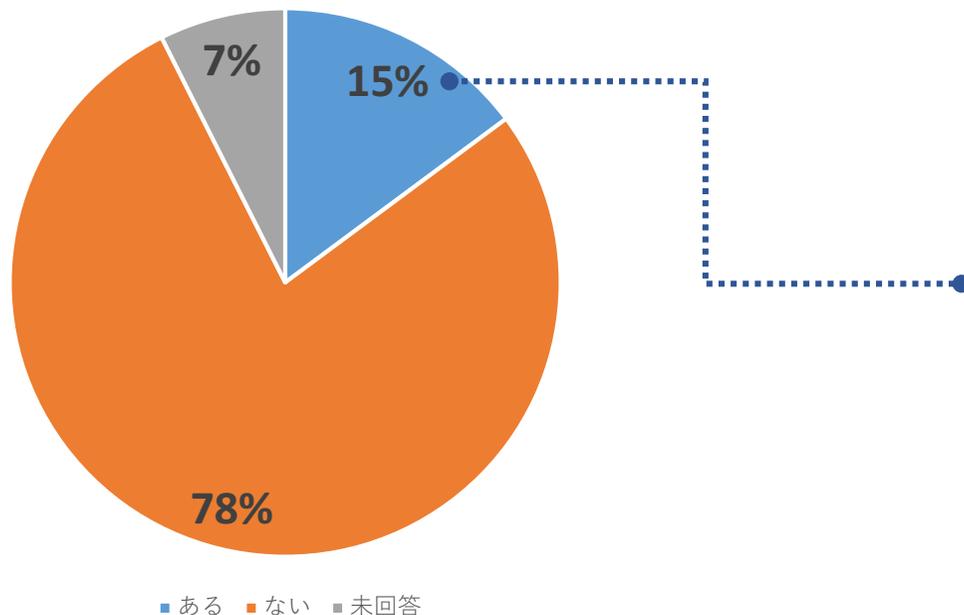
運動・スポーツを通じて、地域の方々(主に他世代の方)と接する機会はあるか

N=296



約60%の子どもたちがスポーツを通じて、地域の方々と触れあう機会を持っている。スポーツの振興をコミュニティの活性化につなげ、まちづくりに活かして行く視点が求められる。

やりたいのに出来ない（諦めた）
種目はあるか N=297



種目	計
サッカー	9
バスケット	7
バドミントン	6
水泳(飛び込み含む)	5
スキー(アルペン含む)	5
ダンス	5
スケート	2
バレーボール	2
アイスホッケー	1
キックボクシング	1
弓道	1
ゴルフ	1
卓球	1
テニス	1
剣道	1
少林寺拳法	1
トランポリン	1
ハンドボール	1
ボルダリング	1
体操	1
e-スポーツ	1
野球	1

15%の子どもたちが、希望するスポーツが出来ない（諦めた）環境にある。
その理由は明らかではないが、「身近なスポーツ環境の問題」、「経済的な問題」、
「時間的な問題」、「移動の問題」などが考えられ、子どもたちのニーズを把握するとともに、総合的なまちづくりの視点からスポーツ振興に取り組んで行くことが大切。

成 果

➤ 子どもたちのスポーツ体験機会の創出

全8回6種目

(バレーボール、バドミントン、バルシューレ、Nチャレンジ、ダンス、ピピカツ運動)

- 地元のプロチームやトップチームの協力による子どもたちとのタッチポイントの創出
- 子どもたちのスポーツに対する意欲の向上
(身体を動かすことの楽しさの実感)
- 広域的な範囲からの参加、部活動バスの活用など、広域連携による地域クラブ活動の実施に係る検証
- 普段少人数で練習している子どもたちが、他学校、他地域、他チームの子どもたちと共に練習する機会の創出
- 関係者(子どもたちの体験を支える大人達)間のネットワーキング促進

課 題

- 十分な準備期間・周知期間や実証自治体間での連携機会が必要。
- 初心者と経験者の日程の区分が望ましい。
- 保護者や引率者が学ぶ機会や互いにコミュニケーションがとれるようなプログラムを設けることは検討に値する。
- パラスポーツやゆるスポーツなど、誰もが親しめる種目も取り入れることが大切。
- 運動習慣のない子どもたちの参加を促す仕掛け(周知の工夫)が望ましい。
- 民間との連携、活用を仕掛けとして組み込めれば良かった。

Ⅲ アンケート調査結果

- (1) スポーツ指導者の発掘に係るアンケート調査
- (2) 民間企業等との連携体制の構築に係るアンケート調査

1 調査目的

部活動の地域移行を念頭に、旭川市を中心とした運動・スポーツ指導を担うことができる人材の発掘・把握および指導協力可能性、条件等の把握

2 調査方法

webサイトのアンケートフォーム

- 旭川市スポーツ協会加盟団体等を対象に調査協力を依頼
- SPOPLA北海道のメルマガ登録者を対象にメールにて調査の協力を依頼
- facebook広告を活用した調査協力依頼

3 調査期間

2023年2月3日(金) ~ 2月24日(金)

4 回答者数

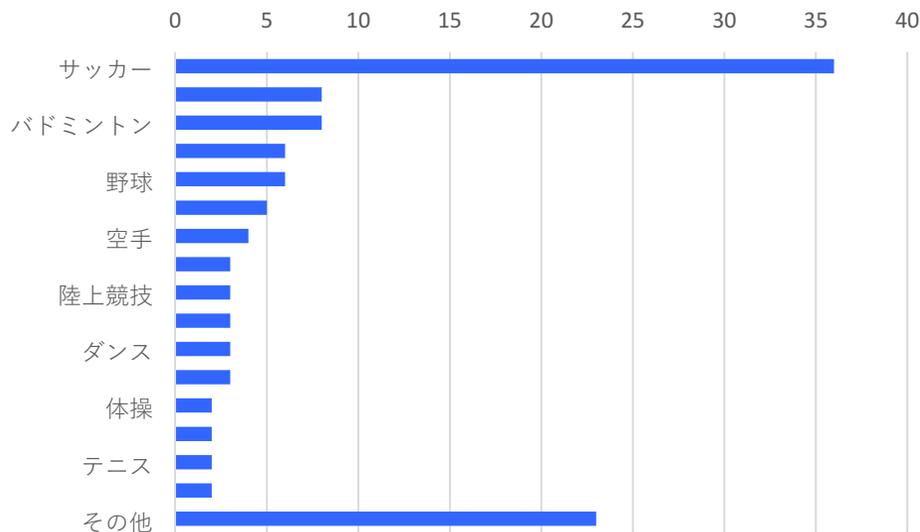
109名

5 調査項目

現在指導している方	現在は指導していないが、指導可能な方
1 運動やスポーツの指導について、当てはまる方を選択	1 運動やスポーツの指導について当てはまる方を選択
2 現在指導を行っている団体名・クラブチーム名	2-1 指導が可能な種目
3 指導されている運動・スポーツの種目	3-2 活動歴・活動状況
4 どのような方々を指導しているか	3 どのような方々を指導可能か
5 どのような運動強度の方々を指導しているか	4 どのような運動強度の方々を指導可能か
6 活動場所	
7 活動の頻度及び時間帯	
8 自宅から活動場所までの移動手段及び所要時間	
9 謝金の有無	
10 部活動の地域移行に関する関心の有無	5 部活動の地域移行に関する関心の有無
11 地域クラブ活動の指導者として協力いただける可能性	6 地域クラブ活動の指導者として協力いただける可能性
11-1 協力可能な条件	6-1 協力可能な条件
11-2 希望する謝金の目安	6-2 希望する謝金の目安
11-3 活動可能な頻度及び時間帯	6-3 活動可能な頻度及び時間帯
11-4 その他要望事項	6-4 その他要望事項
12-1 指導にあたり希望するレベル	7-1 指導にあたり希望するレベル
12-2 指導出来る範囲	7-2 指導出来る範囲
12-3 現在指導している種目以外の指導の可否とその種目	

現在指導している方の回答

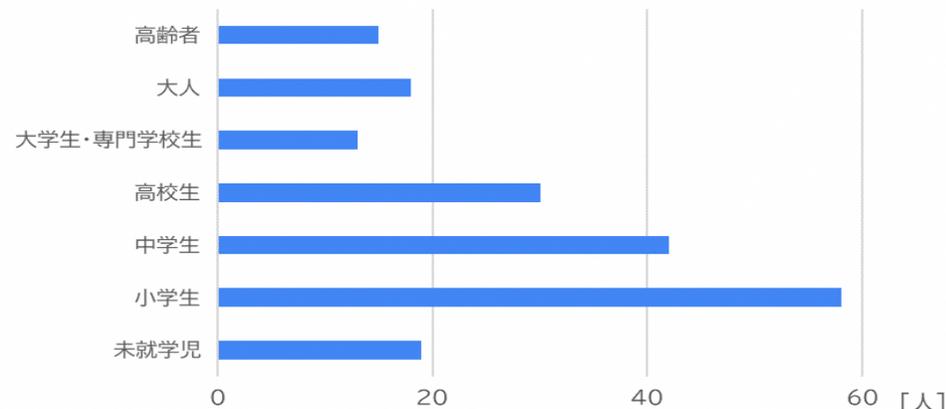
Q.指導している種目(複数回答)



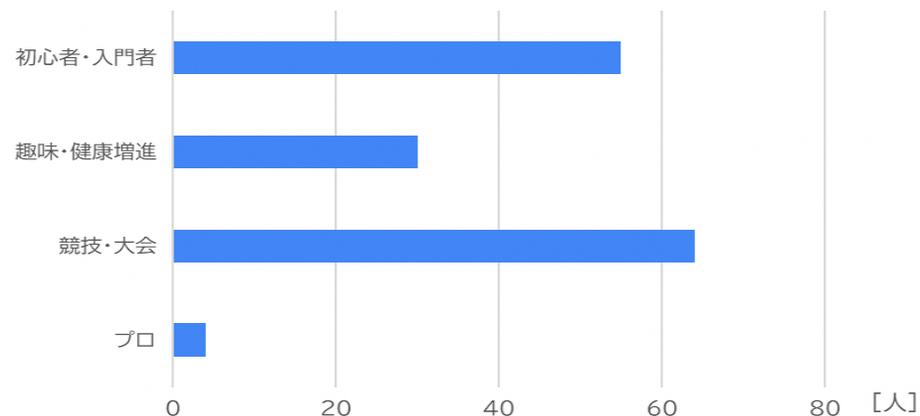
(その他)

・高齢者運動教室・障害者スポーツ・eスポーツ・バレエ・ソフトテニス・フラッグフットボール・チアリーディング・水泳・トレイルランニング・ウォーキング・カーリング・レスリング・綱引・ニュースポーツ・軽スポーツ・ウェイトトレーニング・スノーボード・登山・柔道・タグラグビー・コーディネーショントレーニング・パークゴルフ・アイスホッケー

Q.指導の対象(複数回答)



Q.指導の運動強度(複数回答)



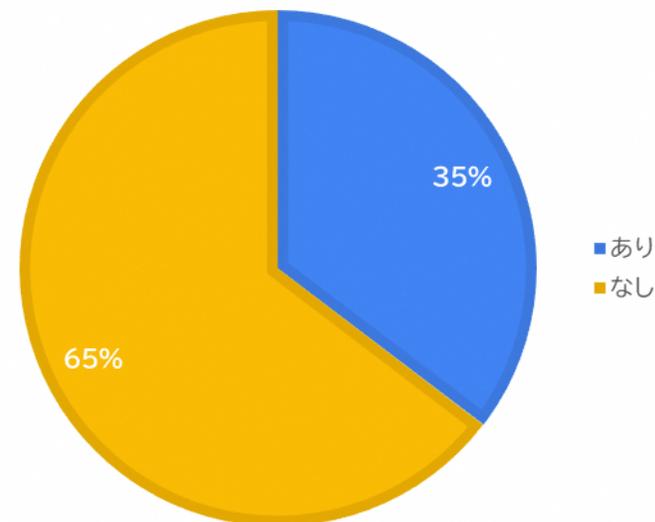
- ・ 指導種目は幅広く挙げられているが、サッカーが突出して多くなっている。スキーも比較的多い。
- ・ 小・中学生を対象としている指導者が多い。
- ・ 運動強度としては初心者から大会レベルまで幅広く指導している。

Q.活動頻度及び時間帯(複数回答)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
9-12時	5	7	5	5	4	53	40
13-16時	5	5	4	5	4	31	28
16-19時	30	42	46	42	48	16	13
19-22時	19	18	19	18	17	9	4

[人]

Q.指導に対する謝金の有無



Q.活動場所までの移動手段及び移動時間(複数回答)

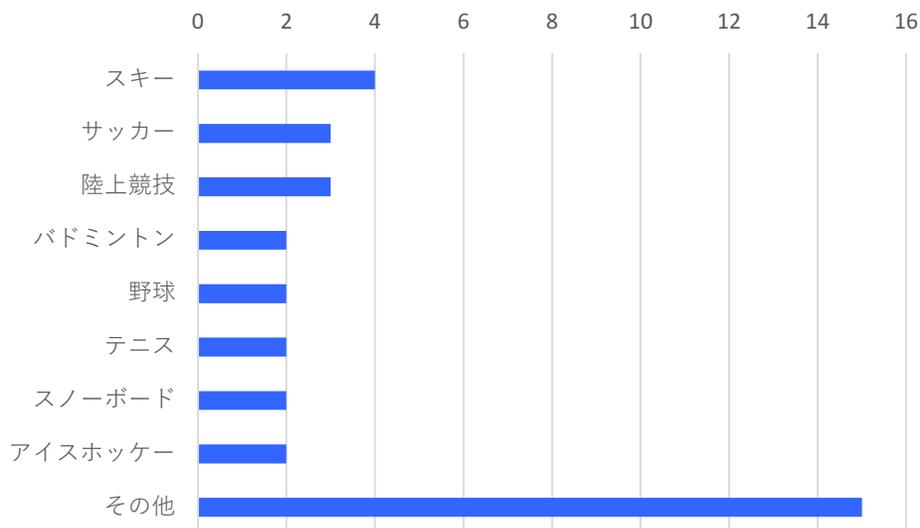
	車・バイク	バス・電車	自転車	徒歩
15分以内	45	0	3	6
15~30分	30	1	2	0
30~60分	15	2	0	0
60分以上	6	1	1	1

[人]

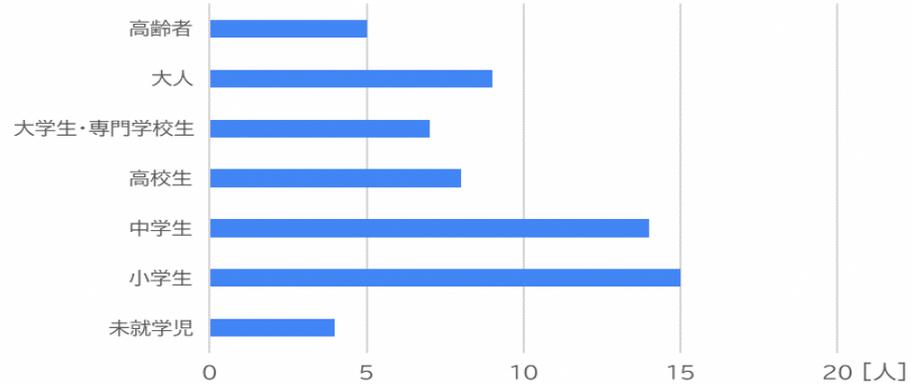
- 活動時間帯は、平日は夕方から夜間帯が大半を占め、土日は午前中から夕方までが多い。
- 活動場所までの移動手段は、車・バイクが大半を占め、移動時間は30分以内が多い。
- 指導に対する謝金については、6割以上の方が無償で指導を行っている状況にある。

現在指導していないが、指導可能な方の回答

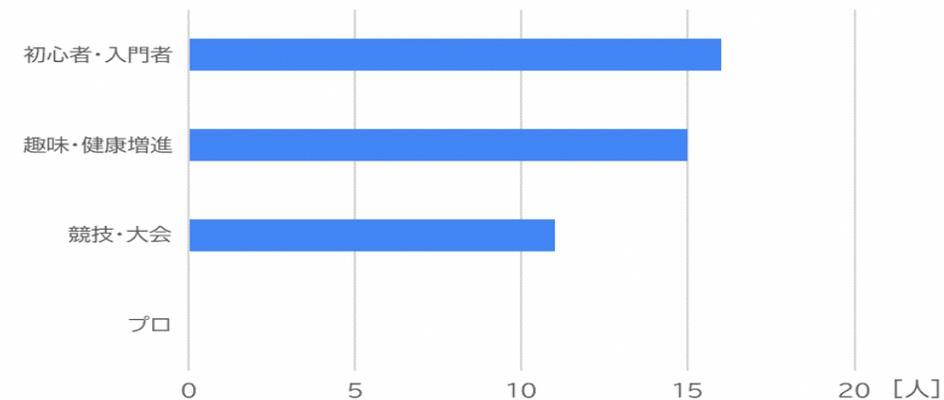
Q.指導可能な種目(複数回答)



Q.指導可能な対象(複数回答)



Q.指導可能な運動強度(複数回答)



(その他)

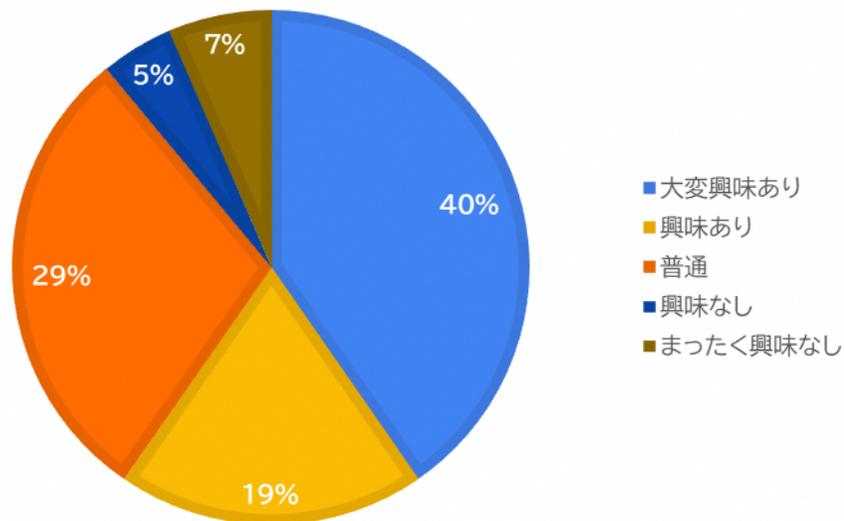
・バレーボール・アーチェリー・空手・バスケットボール・クロスカントリー・サーフィン・SUP・ウィンドウサーフィン・ヨット・ゲートボール・ソフトテニス・自転車ロードレース・トライアスロン・スノースクート・スノーモト

(活動歴) 抜粋

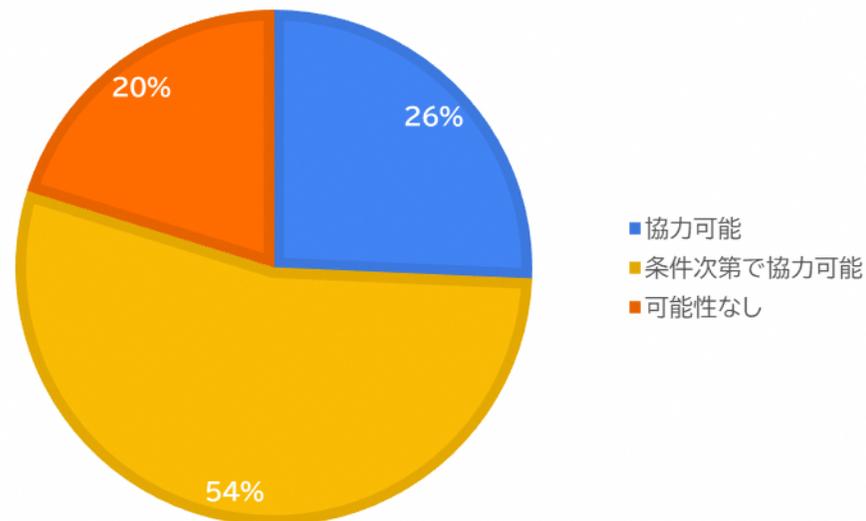
・競技歴20年、少年団指導歴3年
 ・選手として20年以上、体験会指導、審判等
 ・スキー準指導員 ・サッカー歴17年、フットサル歴9年 など

- ・ 指導可能な種目は幅広く挙げられている。ウィンタースポーツやマリンスポーツが比較的多い。
- ・ 活動歴では、指導可能な種目を長年続けている方が多い。
- ・ 小・中学生を対象としている指導者が多い。
- ・ 運動強度としては初心者から大会レベルまで幅広く指導している。

Q.部活動の地域移行に対するの関心



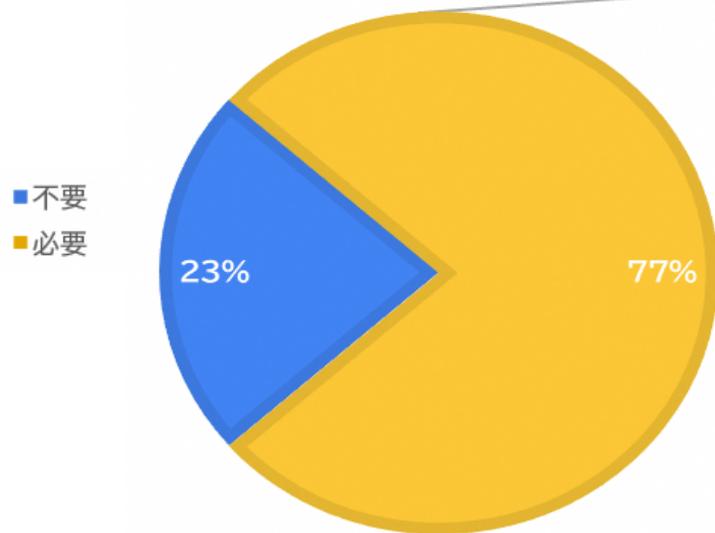
Q.地域クラブ活動の指導者として協力の可能性



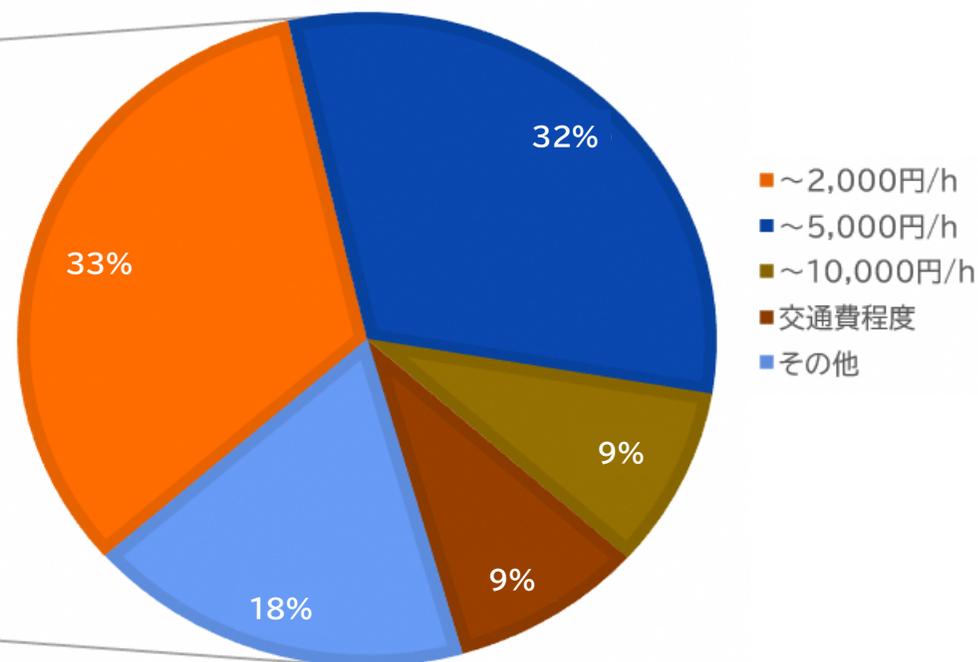
- 部活動の地域移行に関して、回答者のうち約6割の方が興味を持っている。
- 地域クラブ活動の指導者として協力いただける可能性については、約8割の方が協力可能、または条件次第で協力可能と回答。

地域クラブ活動の指導者として「協力可能」・「条件次第で協力可能」の方

Q.謝金の必要性



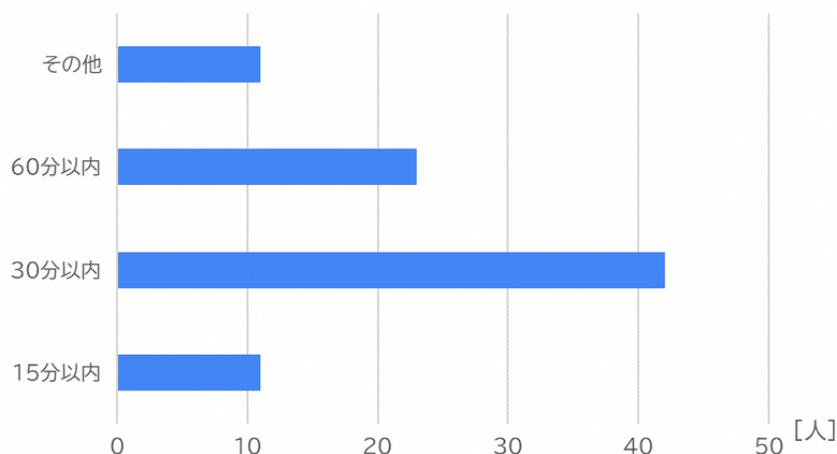
Q.希望する謝金の目安



- 「協力可能」「条件次第で協力可能」の方のうち、約8割の方が謝金を希望している。
- 謝金の希望平均金額は、1時間当たり2,286円（最低500円、最高10,000円）

地域クラブ活動の指導者として「協力可能」・「条件次第で協力可能」の方

Q.活動場所までの希望移動時間(車移動)



(その他)

- ・ 応相談
- ・ オンラインでの指導も可能
- ・ 条件による
- ・ 道内
- ・ 60分以上可能
- ・ 特になし
- ・ 活動場所によって変更
- ・ 遠方の場合は宿泊あり

Q.希望する活動時間帯(複数選択)

	[人]						
	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
9-12時	6	4	6	5	4	29	25
13-16時	5	5	6	5	4	29	24
16-19時	25	24	25	23	23	20	16
19-22時	26	25	26	28	24	15	11

- ・ 活動場所までの希望移動時間については、約7割の方が30分以内を選択している一方、60分以上や道内各地、オンラインでの指導も可能とする回答もある。
- ・ 活動可能な時間帯は、平日は夕方から夜帯、土日は午前中から夕方にかけてが多い。

1 調査目的

部活動の地域移行を含めた地域における子どもたちの多様なスポーツ環境整備に向けた民間企業等との連携可能性の把握

2 調査方法

webサイトのアンケートフォームでの回答
⇒「SPOPLA北海道」会員企業等を対象に調査の協力を依頼

3 調査期間

2023年2月3日(金) ～ 2月24日(金)

4 回答数

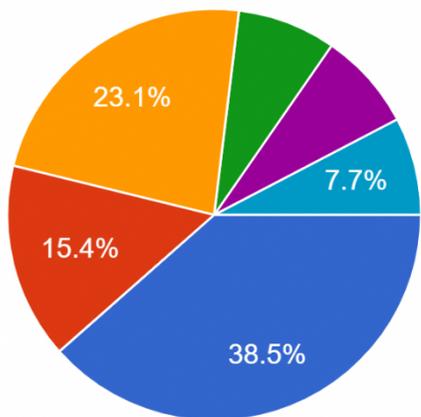
13社

5 調査項目

1 自治体や地域スポーツクラブなどの道内の地域スポーツ活動を推進する団体等に対して、貴企業や団体に属する従業員等をその指導者として派遣することは可能か	3 道内の地域スポーツの場を貴企業・団体の広告宣伝の場として活用することは考えられるか
1-1 派遣可能な条件	3-1 活用する場合の要件
1-2 派遣可能なスポーツの種目	3-2 検討につながる条件等
1-3 遠隔での指導は可能か	4 企業版ふるさと納税の活用や寄付によって、地域スポーツ活動を支援する取組をしたことがあるか
1-4 派遣が難しい場合の理由	4-1 具体的にどのような取組を支援しているか
2 道内の地域スポーツ活動の場を貴企業・団体のテストマーケティングの場として活用することは考えられるか	4-2 どのような考えを持つ自治体、どのような取組等があれば、支援できるか
2-1 活用する場合の要件	5 貴企業・団体のCSRの一環として、道内の地域スポーツ活動に協力できる取組があるか
2-2 検討につながる条件等	

6 調査結果

Q.職員を指導者として派遣することは可能か

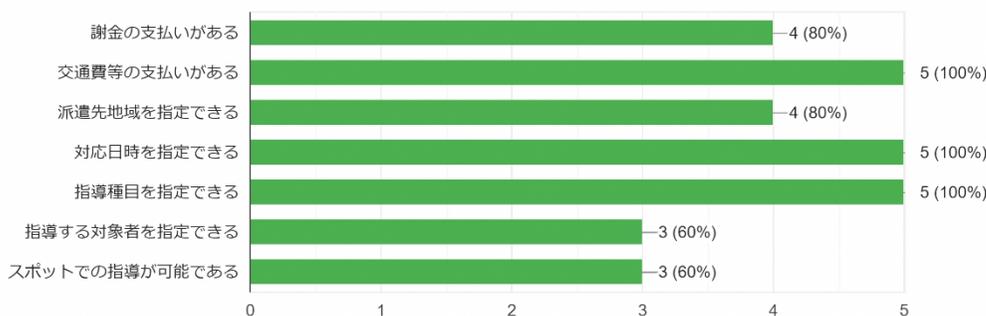


- 条件付きで派遣可能 (組織としての派遣)
- 組織としての派遣は難しいが、兼業を可能としており、個人の判断でその指導...
- 組織としても個人としても派遣は難しい
- 検討段階にあり、現段階での回答は難しい
- 弊社の事業内容とスポーツが離れているので、何かシナジーが得られそうである...
- 土日祝日に個人の判断で可能。但し適...

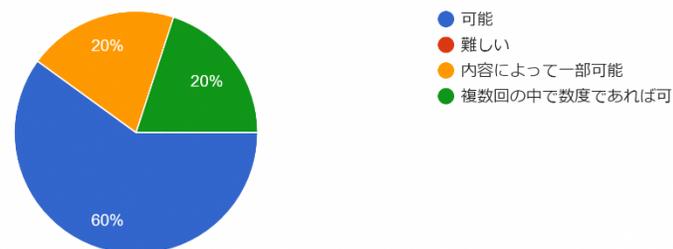
<「派遣可能」と回答した企業の属性>

- ・ eスポーツ研究会 (釧路市)
- ・ 環境関連機器の販売会社 (東京都)
- ・ 加圧トレーニング会社 (東京都)
- ・ 大手スポーツメーカー (東京都)
- ・ 大手スキーメーカー (東京都：札幌支社)
- ・ 大手スポーツ用品販売 (東京都：札幌支社)
- ・ アスリート雇用している建設会社 (札幌市)
- ・ パーソナルジムチェーン (札幌市)

Q.派遣可能な条件

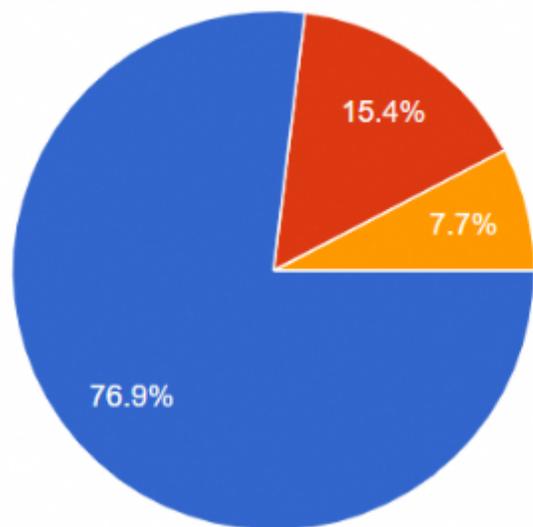


Q.遠隔指導が可能か



- ・ 「条件付きで派遣可能(組織としての派遣)」が5社、「組織としての派遣は難しいが、兼業を可能としており、その指導に当たることは可能(個人としての参加)」が3社。
- ・ 謝金・交通費、派遣先地域、対応日時、指導種目などの一定条件が求められている。
- ・ 遠隔での指導も可能としている。

Q.地域スポーツ活動をテストマーケティングの場として活用できるか



- 条件次第で活用したい
- 活用する見込みはない
- 予算がないものへのテストは検討していない

- ・eスポーツ研究会(釧路市)
- ・環境関連機器の販売企業(東京都)
- ・プロスポーツチーム(北海道)
- ・大手製薬メーカー(徳島県:札幌支社)
- ・大手生命保険会社(東京都:北海道支社)
- ・大手スキーメーカー(東京都:札幌支社)
- ・大手スポーツ用品販売(東京都:札幌支社)
- ・アスリート雇用している建設会社(札幌市)
- ・パーソナルジムチェーン(札幌市)
- ・食品の受託分析事業(東京都)

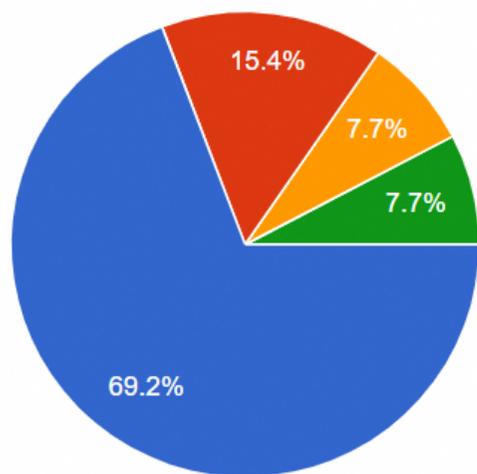
(実施条件)

- ・大会等の放送、配信、コンテンツ制作
- ・十分な環境が提供されること
- ・弊社の健康促進活動とのタイアップなど
- ・弊社の事業内容にあった市場性とそのサポート等

- ・新たなスポーツの取り組みの際には活用させていただきたいです。
- ・本社の戦略と合致した場合
- ・事前すりあわせがしっかりできること
- ・部活動に取り組む学生の親を巻き込んだ活用であること。

- ・「条件次第で活用したい」と回答した企業が約8割となっている。
- ・企業側のメリットが明確であることが主な条件となっている。

Q.地域スポーツ活動を広告宣伝の場として活用できるか



- 条件次第で活用したい
- 活用する見込みはない
- 検討したことがなく、現段階での回答を控えたい
- 広告宣伝の目的は無し。CSRなどを前面に出しての取り組みも検討はしていない

- ・大手製薬メーカー(徳島県:札幌支社)
- ・大手生命保険会社(東京都:北海道支社)
- ・大手スキーメーカー(東京都:札幌支社)
- ・大手スポーツ用品販売(東京都:札幌支社)
- ・アスリート雇用している建設会社(札幌市)
- ・パーソナルジムチェーン(札幌市)
- ・食品の受託分析事業(東京都)

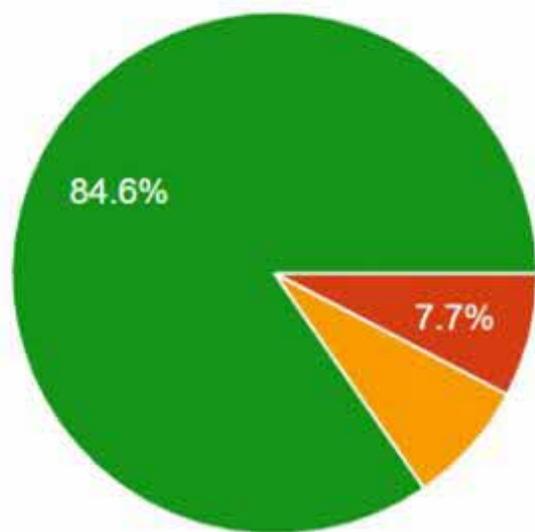
(実施条件)

- ・今後見込める市場性及びスポンサーシップの価格
- ・都度内容の性質により違いがあると思います。

- ・マネタイズとのバランス
- ・事前すりあわせがしっかりできること
- ・①費用面、②特定の地域や団体への広告掲載時の本社承認

- ・「条件次第で活用したい」と回答した企業が約7割となっている。
- ・企業側の費用対効果が主な条件となっている。

Q.企業版ふるさと納税の活用や寄付によって、地域スポーツ活動を支援する取組をしたことがあるか



- 特定の自治体に定期的に行っている
- スポットで行ったことがある
- これまで実施したことはないが、企業・団体としての方針や考え方などが合致する自治体や支援したい取り組みなどがある自治体があれば行いたい
- 特に行ったことはない

・大手スポーツ用品販売(東京都:札幌支社)
「これまで実施したことはないが、企業・団体としての方針や考え方などが合致する自治体や支援したい取り組みなどがある自治体があれば行いたい」

・パーソナルジムチェーン(札幌市)
「スポットで行ったことがある」

(実施条件)

- ・スポーツ人口の増加と選手育成に理解のある団体との取り組みができればよいと思います。
- ・ヘルスケア活動について具体的なゴール(血液データ数値など)を持った、中長期的(2~3年)取り組み

- ・ 「特に行ったことはない」という回答が大半を占めた。
→ 自治体側の取組を促進し、企業側への働きかけやPRが必要。

(1) 指導者の発掘に係る調査

- 地域クラブ活動の指導者としての協力について、約8割の方が「協力可能」・「条件次第で協力可能と」回答。
- 指導対象は小・中学生が多く、指導の運動強度は初心者から大会レベルまで幅広く対象としている。
- 地域クラブ活動の指導者として活動可能な人材は、種目や地域によっては一定数存在することが伺える。
- 指導に対する謝金について、6割以上の指導者が無償で指導を行っているという実態が判明した一方、地域クラブ活動の指導者として活動する場合は、約8割が謝金を希望しているほか、1時間当たりの平均希望額が約2,300円との結果が得られ、今後各地域において単価を設定する際の参考となるデータが得られた。
- 活動場所までの移動時間は、現在指導中の方、指導可能な方、いずれも片道30分以内（車使用）が大半を占めており、今後、自治体を超えて指導者を探索する場合の一つの目安とすることが考えられる。
- 活動時間帯について、土日の午前中から夕方までの時間帯を希望する回答が多かったことは、休日の部活動の地域移行の方向性に一致する結果となった。平日においても、放課後の時間帯を希望する回答が多く、平日の部活動に係る部活動指導員や外部指導者としての活用も期待できる。

(2) 民間企業等との連携体制の構築に係る調査

- 職員を指導者として派遣することが可能とする民間企業等は約4割であった他、職員が兼業として指導者として活動することを認める民間企業等は約2割という結果となった。謝金等の条件が整えば、専門的な指導が可能な指導者の確保につながる可能性がある。
- テストマーケティングや広告宣伝による連携については、7～8割の民間企業等が前向きな回答を寄せており、地域クラブ活動に参加する生徒の飲料や用具等の確保や広告収入による財源の確保等につなげることが期待される。
- 一方、企業版ふるさと納税については、「寄付等を行ったことが無い」との回答が大半を占めているが、沖縄県うるま市では域外の企業から多額の寄付を得ており、そのような先進事例を参考に自治体側が積極的に制度を活用し、企業側のメリットをPRする取組によって機運を高め、地域クラブ活動など地域のスポーツ環境を充実させ持続的な取組につなげていく努力が必要。
- 以上の結果を踏まえて、地域と企業のニーズのマッチングやコーディネートをする取組が求められる。

IV 成果報告会

1 開催日時

令和5年3月6日（月）13：30～15：00

2 場所

メイン会場）鷹栖町プラザ・クロス10大ホール
サテライト）名寄市エンレイホール

3 目的

運動部活動の地域移行を見据え、子どもたちの多様なスポーツ環境の整備に向けた実証のため、「地域スポーツ連携・協働再構築推進プロジェクト」における成果の普及を目的とする。

4 出席者

全道の教育委員会関係者・学校関係者 約30名

5 概要

- (1) 開会挨拶：北海道教育庁上川教育局長 岸本 亮
- (2) 講演：スポーツデータバンク代表取締役社長 石塚大輔氏
テーマ
「部活動の地域移行を含めた子どもたちの多様なスポーツ環境整備について」
- (3) 成果報告：北海道教育庁教職員局教職員課主査 佐伯圭介
- (4) パネルトーク～現場目線から今年度の取組を評価し、
今後の必要な取組を考える～
(パネリスト)
 - ・スポーツデータバンク代表取締役社長 石塚大輔氏
 - ・一般社団法人SLDI代表理事 辻本智也
 - ・鷹栖町教育委員会体育振興係長 山岸智也
- (5) 質疑応答



講演

「部活動の地域移行を含めた子どもたちの多様なスポーツ環境整備について」

< 沖縄県うるま市の事例紹介 >

- うるま市では2017年度から取り組みを開始し、外部指導者の配置や拡大などの取組の他、財源の確保や学校体育館の管理の方法の工夫などの取組を展開してきた。
- 企業版ふるさと納税を活用し、令和3年度の実績が1,500万円程度。
- 対象企業へのPRや受入等を民間事業者へ成果報酬型契約によって委託する工夫が功を奏した形。
- 三井住友海上とうるま市、SDBが協定を結び、e-learningシステムを活用して指導者の資質向上につなげる取組やアスリートを活用したケガ予防の講習を実施。

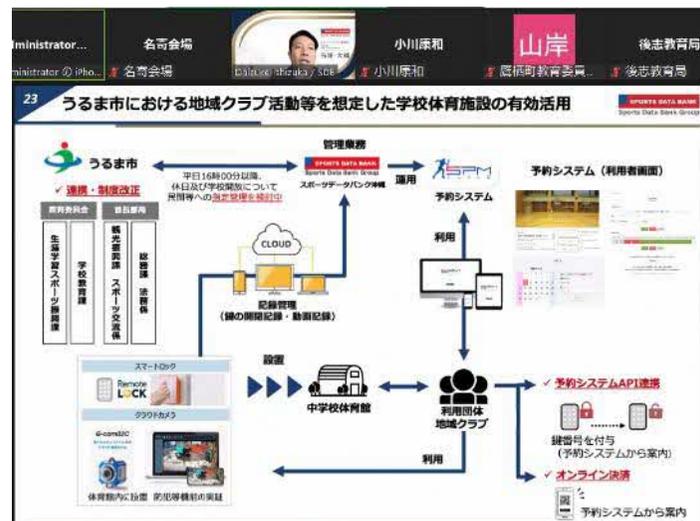
成果報告

< 運動・スポーツ体験イベントの開催結果 >

- 全8回6種目に渡り開催。
- 一番の成果として、地域における子どもたちが、体を動かすことの楽しさを実感できる体験機会を創出出来たことがあげられる。
- 他にプロチーム等と子どもたちのタッチポイントの創出、部活動バスの活用などによる広域的な参加、イベントを通じた関係者間のネットワークの促進があげられる。
- 課題として、準備期間がタイトだったことによる周知不足の他、保護者の学び体験機会の創出、運動習慣の無い子どもたちの参加促進、民間との連携などの仕掛けが必要。

< アンケート調査結果 >

- 6割以上の指導者がボランティアで従事していることが判明したが、地域クラブでの活動に当たっては、8割が謝金を希望。平均希望額は2,286円/h
- 活動場所までの移動時間は片道30分以内が目安となる。
- 民間企業へのアンケートでは、指導者の派遣に前向きな回答は5割以上。
- 地域スポーツ活動をテストマーケティングや広告として活用したいとする回答は7~8割程度であるが、企業版ふるさと納税による地域スポーツ活動を支える取組は8割以上が行ったことが無いと回答。



パネルトーク ～現場目線から今年度の取組を評価し、今後の必要な取組を考える～

<鷹栖町総合型地域スポーツクラブの状況>

- ・ 町主導で総合型地域スポーツクラブを令和5年3月に設立予定。子どもたちのスポーツ環境の整備や大人の運動習慣化の定着を目標にしている。(以前と比べて子どもたちの少年団等への参加率が低い、働き世代の運動率が低いことが背景のひとつ。)
- ・ コーディネーショントレーニングやバルシューレを開催し、子どもたちが楽しみながら運動に触れる機会を創出したい。鷹栖町に限らず周辺自治体でバルシューレなどに取り組みやすい環境がない子どもたちにも提供していきたい。
- ・ 将来的には、総合型地域スポーツクラブを部活動地域移行の受け皿にする方向性。

<体験イベントについて>

- ・ 保護者からはバルシューレがどのようなものかわからないとの意見もあったが、実際に子どもを参加させた保護者からは、バルシューレを継続して取り組みたいとの意見もあり好反応であった。
- ・ バルシューレの認知度を上げることで、総合型地域スポーツクラブの参加率向上にも寄与するものと考えている。
- ・ 普段、少年団は少人数で活動しているので、他校の生徒と練習できたことは良い刺激になった。

<未来のブカツビジョン実証事業について>

- ・ 岩見沢市は少子化が深刻であり、将来的に学校単位での部活動の維持が難しい状況にあることから、拠点化に向けた取組として移動手段の検証を実施。
- ・ 貸切バス、タクシーを活用し、市の外輪にある中学校から市街地の拠点校(中学校・大学)まで生徒を移動させる取組。
- ・ 下校時間からバス乗車までの時間や、拠点校到着から活動開始までの空白時間の有効活用やその間の責任の所在の整理などが課題として挙がっている。

<移動手段に係る課題について>

- ・ 名寄市では、今年度から部活動バスを運行し、風連地区と名寄地区にある3つの中学校を往復(R4はバレーボール部と野球部を対象)
- ・ 保護者の負担軽減や子どもたちの部活動継続のため市として取組、予算は年間4～500万円。隣町まで広げることや少年団も対象の範囲に含めることなどの意見がある。
- ・ 鷹栖町も市街地が2つに分かれており、片方の地区でしかやっていない少年団があるため、やりたくてもなかなか所属できないといった課題がある。そこに対しての解決策は見いだせていない状況にある。



V 広域連携検討会議

北海道と実証自治体である名寄市、鷹栖町及び比布町が相互に連携を図り、プロジェクトの推進に必要な事項の検討や各自治体のスポーツ環境、部活動の地域移行等について、情報共有や意見交換を行うことを目的として開催。

事務局である道の関係職員その他、構成員として、実証自治体の教育委員会関係者、スポーツ担当部局関係者、学校関係者、スポーツ団体関係者等から選任したほか、専門的知識を有する民間事業者等をアドバイザーとして配置した。

また、近隣自治体へオブザーバー参加の呼びかけを行い、複数市町村からの参加を得た。

(令和4年11月、令和5年3月に各1回開催)

構成員（令和5年3月2日時点）

所 属	職 名	氏 名
スポーツデータバンク株式会社	代表取締役	石 塚 大 輔
一般社団法人SLDI	代表理事	辻 本 智 也
名寄市総合政策部スポーツ・合宿推進課	課長	松 澤 大 介
名寄市教育委員会学校教育課	課長	池 田 俊 一
名寄市立風連中学校	校長	中 村 公 暢
鷹栖町体育協会	監事	宝 田 庄 十 郎
たかす総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会	委員	内 藤 直 子
鷹栖中学校	校長	大 場 八 仁
鷹栖町総務企画課	参事	戸 島 隆 喜
鷹栖町教育委員会	教育長	鷲 下 正 彦
鷹栖町教育委員会	体育振興係長	山 岸 智 也
比布町教育委員会生涯学習課	課長補佐	幸 村 拓 也
比布町教育委員会生涯学習課	課長補佐	黒 瀬 祐 一
比布町教育委員会生涯学習課	主幹	齋 藤 祥 子
比布町総務企画課	室長	小 菅 生 竜 夫

1 開催日時

令和4年11月7日（月）13：30～15：00

2 場所

上川合同庁舎 1階103号会議室
（旭川市永山6条19丁目1番1号）

3 概要

- (1) 開会挨拶：北海道教育庁教職員局長 伊賀 治 康
- (2) 出席者紹介
- (3) 事業説明：北海道教育庁教職員局教職員課課長補佐 泉川 佳 孝

(4) 実証自治体からの報告

学校部活動やクラブチーム、少年団等の現状や部活動の地域連携や地域移行に向けた各種取組、運動・スポーツの振興に向けた特色ある取組について説明があった。

- ① 名寄市教育委員会学校教育課長 池田 俊 一 氏
- ② 名寄市総合政策部スポーツ・合宿推進課長 松澤 大 介 氏
- ③ 名寄市風連中学校長 中村 公 暢 氏
- ④ 鷹栖町教育委員会体育振興係長 山岸 智 也 氏
- ⑤ 比布町教育委員会生涯学習課課長補佐 黒瀬 祐 一 氏

(5) アドバイザーからの情報提供

部活動の地域移行に向けた国の検討状況、他県における先進的な取組、先進的な運動プログラムの紹介、実践事例等について情報提供があった。

- ① 北海道二十一世紀総合研究所調査研究部次長 河原 岳 郎 氏
- ② (株)スポーツデータバンク代表取締役社長 石塚 大 輔 氏
- ③ 一般社団法人SLDI代表理事 辻 本 智 也 氏

(6) 質疑応答・意見交換



